

愛媛 森連時報 11月号

発行所 松山市三番町4丁目4番地1 愛媛県森林組合連合会
電話 089-941-0164 FAX 専用 941-0550

印刷所 松山市福音寺町728番地 平和印刷工業株式会社
電話 089-947-9155 (購読料1ヶ月120円)

外国人技能実習生の受け入れについて



九月三十日より以前は、林業分野は技能実習一号しか認められておらず、一年で帰国しなげればならなかったが、技能実習二号に移行すれば最大三年の在留期間となり、二号に移行するためには外国人技能実習生対象の技能検定基礎級の合格が必要となる。

の宗教はムスリムでハラールフードだが、日本の食事や文化に段々慣れつつある。受入れには、監理団体との契約、監理費の支払い、入国費用の支払い、住居の確保や、銀行口座の開設、スマホの契約やクラウドの確保など、いろいろなハードルがありそれなりの覚悟が必要になる。雇用対策課においては、彼らが林業の担い手になるよう、今後も指導していきたい。

わかれており、各級それぞれ学科技験と実技試験の両方に合格すると「林業技能士●級」を名乗ることができます。(これら以外に外国人技能実習生向けの技能検定があります)。「林業技能向上センター」

※緑文字は引用

県森連の情報は随時更新しています。

「愛媛県森林組合連合会」と検索するか、QRコードを読み取ってください。QRコードはこちらから



現在、県森連においては、インドネシアより外国人技能実習生二名を受け入れて、主に下刈り現場にて作業している。外国人技能実習制度は、我が国で開発された技能、技術等の開発途上国等への移転を図り、その開発途上国等の経済発展を担う「一人づくり」に協力することを目的とした制度です。(法務省、厚生労働省所管)

インドネシアは親日国であり、日本文化に対する憧れがあり、日本語の勉強、日本文化を理解しようとする姿勢は目覚ましいものがある。彼らとの通常の会話は日本語で行っており、スマホの翻訳機能を使うことは稀だ。彼ら

林業団体は、「技能士」育成にとりくみます。

国家検定 (職業能力開発促進法) 林業技能検定

第1回林業技能検定 募集決定!! やってみよう!

- 国家検定に挑戦、力試し!
- 育林・森林生産作業の技能・知識を再確認!
- チェーンソーワークの安全作業を再確認!

厚生労働大臣指定試験機関 **FSTC**

★検定試験の詳細はウラ面をご覧ください

林業技能検定は育林・森林生産作業に関する知識と技能を評価する国家検定です。1級から3級の3つの等級に分かれており、各級それぞれが学科技験と実技試験の両方に合格すると「林業技能士●級」を名乗ることができます。

試験区分	級別	出題方法	出題範囲	試験時間
学科試験 (筆記)	1級・2級	真偽法25問 選択式一択25問	育林・森林生産作業全般	60分
	3級	真偽法30問	育林・森林生産作業全般	30分
実技試験 (実技)	1級・2級	多肢選択式5問	植付、伐倒、集材、修築の技能	20分
	3級	多肢選択式5問	植付、伐倒、集材、修築の技能	20分
実技試験 (実技)	1級	チェーンソー・口内作業 (修築)	10分	
	2級	チェーンソー・口内作業 (植付)	7分	
	3級	チェーンソー・口内作業 (伐倒)	7分	

◆試験スケジュール

級別	学科試験 (筆記)	実技試験 (実技)
1級・2級	2025年1月25日(土)	2025年2月6日(木)
3級	2025年2月6日(木)	2025年2月6日(木)

◆申込方法

林業技能向上センターウェブサイト
https://rimyou-aiso.org/

令和六年度全国森林組合代表者大会全森連会長表彰



去る令和六年度十月十六日(水)、銀座プロッサム中央会館(東京都中央区)において令和六年度全国森林組合代表者大会が開催され愛媛県より十三名が参加した。

大会では、森林整備のための財源確保などについての意思表明や大会決議などのほか令和六年度の永年にわたり組織の発展に功労があった職員等に贈られる功労者表彰と系統組織の発展に功績のあった団体・個人に贈られる感謝表彰の表彰式があった。

「功労者表彰」(敬称略)

「組合役員」
岡田 志朗 (内子町森林組合)
藤中 彰 (西予市森林組合)

「組合職員」
伊藤 允洋 (いしづち森林組合)
目見田智恵 (いしづち森林組合)
坂口 大作 (久万広域森林組合)
小池 俊一 (久万広域森林組合)
長井 義仁 (久万広域森林組合)
松本 有希 (大洲市森林組合)

「現場技能者」
菅野 務 (松山流域森林組合)
山上 浩一 (南宇和森林組合)
岩崎 智 (南宇和森林組合)
赤松 春樹 (南宇和森林組合)
植田 春輝 (愛媛県森林組合連合会)

愛媛県森林組合連合会では、永年にわたり系統組合の発展に功労のあった方々を役員・職員・作業員ごとに「功労者表彰」として表彰審査委員会に推薦した。

令和六年度森林Jークレジット活用セミナー



令和六年七月二十七日(金)、愛媛県武道館の大会議室において、「令和六年度森林Jークレジット活用セミナー」が開催された。

昨年度に開催したセミナーと少し異なり、今回はJークレジット制度について詳しく知らない人、中でも地元企業・自治体等、愛媛の森林資源を活かしたCSR活動に興味のある企業をメインの対象としており、オンライン併用でおよそ六十名が参加した。最初に、Jークレジット制度の基本的な内容について、みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社の山口 圭太氏より講演があった。Jークレジット制度の概要・考え方や制度を活用することのメリット、制度への登録・認証方法等の大まかな流れまで、Jークレジット制度についての知識を深めた。

次に、森林由来のJークレジットの活用について、四国経済産業局の川崎 ひかる氏、PWC Japan 有限責任監査法人の竹内 和沙氏より講演があった。

MORITAKANMAの取材



から何か方法はないかと組合が考え、森林に気軽に触れ合ってもらえる場を提供するため、組合で山林を購入。広場や管理棟、研修棟を整備し現在のキャンプ場が完成した。令和三年八月八日山の日に合わせたオーブンゲイブントでは地元の小学校にチラシを配布し三〇〇名近い参加者を集め、ヘラクレスオオカブトやオオクワガタが当たる森林の宝探しや重機の操縦体験、山歩き体験など子供たちが喜ぶ内容を盛り込み大成功を収めた。第二弾として、B&Q&アウトドアアクッキングを開催し、焚火を利用してアヒージョ料理や棒巻きパン調理などや森林教室を実施しこちらも大成功を収めた。

この「MORITAKANMA」は、西予市森林組合が管理するキャンプ場である。MORITは森のメリットを存分に生かし、人々が遊び育つ場所という意味が込められ、AKANMAは地名の「明間」からきている。



地域での森林組合の知名度が低いこと

いるかわからない。木を伐ることを見たこともない。林業教室も学校のグラウンド内で重機を操作する程度で実際に山での作業を見たことがない。といった問題を点を一気に解決し、実際にほぼ毎年の高校生新卒の就業に繋がっている。

就業に当たり、林業が選択肢にないのは、就職する本人だけでなく親世代、特に森林組合を知らない母親が就業先の決定権を握っていることと推測した組合は、森林内でのボランティアの実施や小学生、保育園児を対象とした森林教室にも力を入れている。

また、組合内での新人研修の場としても利用することから労働安全にも配慮した施設となっている。

この活動を聞き全国森林組合連合会佐々木参事からもぜひこの施設に泊まってみたいとの声も聞かれ終始和やかな雰囲気取材が進んだ。今回の取材内容について雑誌森林組合に詳しく掲載される予定なのでぜひ確認してもらいたい。

高校生新卒採用者 推移

平成30年	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
1名	0名	1名	1名	2名	1名	1名

令和六年 愛職連夏季運動会の開催



愛職連会長賞、副会長賞、農林中央金庫賞など、計二十一の賞品をかけて熱い戦いが行われた。優勝は東西宇和支部、準優勝は上浮穴支部。東西宇和支部はチーム平均二五・三を記録、上浮穴支部はチーム平均二五・八と、非常に熾烈な戦いであった。

【団体戦 結果】

- 一位 東西宇和支部
- 二位 上浮穴支部
- 三位 南北宇和支部
- ※個人戦の結果は割愛



令和六年九月二十八日に愛媛県職員連盟主催の夏季運動会が開催された。今年も例年通りボウリング大会を開催し、参加者は一〇三名であった。農林中央金庫高松支店からも三名の参加をいただき、組織を超えての交流を深めることができた。開会式では愛媛県森林組合連合会の高山代表理事会長より開会挨拶を行い、続いて愛媛県森林組合職員連盟の岸田会長より挨拶、昨年の優勝支部より選手宣誓が行われた後、競技を開始した。

VRを活用した労働安全研修

令和六年八月二十日（火）、県森連中野事業所の流通センター会議室で労働安全研修が開催された。この研修は、株式会社森林環境アライズが事務局となっており「林業労働安全確保対策事業」の一環であり、本事業で購入した労働安全物品を活用、PRすると同時に、労働安全について再度確認するという研修だ。県森連の保全センターの職員を含む現場作業員十名と、愛媛県林業政策課、愛媛県林業研究センターから一名ずつ、緑の雇用生等も参加した。

講師は、株式会社森林環境アライズの石山専務に引き受けていただいた。最初に、石山専務より労働安全についての講義があった。労働災害のうち死亡災害は、年齢層が高い人が多く、知った気になっていたが、今でも問題がなかったから大丈夫だろうといったような油断による起る。また、労働災害発生数については二十、二十九歳の若年層に多い。いま一度、正しい機械の扱い方・持ち方や防護衣等の着用方法などを確認することが大事だ。他にも、労働災害が起った際のチェーンソー等の危険性について動画や実際の事例を交えながら説明された。講義の後、VRを活用し、労働災害の事例を疑似体験した。チェーンソーの持ち手を模した

機器を手に持ち、目元にVRゴーグルを付けて一人ずつ体験した。操作の仕方は簡単で、VRのソフトの指示通りに木を切るだけだ。VRで映っている画面は非常に没入感が高く、気を付けていないと周りにぶつかりそうになった。ソフトの指示通りに伐っていくと、伐採した木が倒れてきたり、立木が裂けたりと様々なパターンの労働災害が発生する。現場作業員等の実際に作業をする人ほど、労働災害が起る時の状況を鮮明に想像しやすく、緊張感のある充実した体験となった。

令和六年全国研究集会の開催



令和六年九月十二日から十三日まで、全国森林組合職員連盟と全国森林組合連合会共催による全国研究集会が開催された。今年度は山形県内において「森林・林業における女性活躍の広がり」をテーマに、講習会や交流会を行った。愛媛県からは愛媛県森林組合職員連盟の岸田宜征会長と喜多支部から二名の合計三名が参加した。

最初に基調講演として人材育成アカデミーローズレインの代表である黒田三佳氏より「里山資源を活かした人材育成」についての講演があった。次に女性職員活動紹介として山形県・温海町森林組合、秋田県本荘由利

森林組合、宮城県中央森林組合の三組合から森林・林業における女性活躍の広がりについて焦点を置いた活動報告が行われた。最後に特別講演として、今年のミス日本みどりの大使である安藤きらり氏から、これまでの活動や森林・林業への想いなどの講演が行われ、研修会は終了した。テーマが「女性の活躍」ということもあり、参加者の約半数は女性であった。ただ、女性が活躍している組合や連合会はまだまだ少なく、実際の現場では環境がまだ整っておらず、希望とは違う製材工場で働いているという女性職員の話を聞くと、やはり全国的に環境整備を実施していくことが急務であると感じた。



【研修の様子】

